



(COMO VAI? = ポルトガル語で「ごきげんいかが?」)

第9回 ブラジルめぐり その2

10月にはこどもの日

10月は、日本では気候が過ごしやすくなり、読書やスポーツなどいろいろなことをしたくなる季節です。ブラジルでは、10月は春真っ盛り。そろそろ夏のバカンスの準備を始めるところでしょうか。10月12日には「こどもの日」があります。子どもたちにとってはプレゼントをもらえるうれしい日です。この日は宗教上の祝日でもあり、学校もお休みになります。

さて今回は、前回に引き続き、ブラジルのいろいろな地域を紹介します。

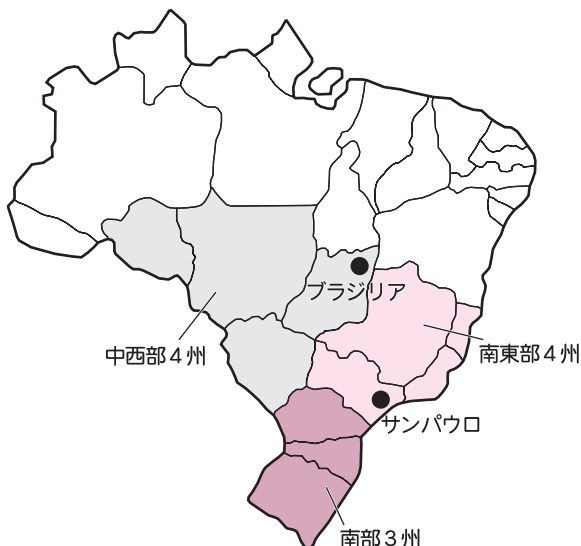
大自然と首都 ...中西部4州 (の部分)

広大なブラジル国土の中西部に位置するマット・グロソ州とマット・グロソ・ド・スール州には、広大なパンタナル湿原があります。ブラジル、ボリビア、パラグアイの3か国にまたがるこの湿原の面積は23万km²。本州とほぼ同じ面積です。「生命の楽園」と呼ばれるほど豊かで美しい自然を保っていて、世界中から自然を愛する観光客が訪れます。

沖縄から移住した人が多く住み、日系ブラジル人のなかでも長寿の地域として知られています。

やはり中西部に位置するゴヤス州は、世界で最も新しい都市として1960年に誕生した首都ブラジリアがあり、ブラジルの政治の中心地になっています。

名物は、ワニの肉を油で揚げた「ジャカレ・フリット」です。



日系人のもたらした経済的発展 ...南東部4州 (の部分)

南東部は、日本からの移住者によってコーヒー栽培が盛んになり、今やブラジルで最も経済的に発展している地域です。国際空港のあるサンパウロ州は世界との窓口で、日本の大手企業や銀行が支社や支店を設けています。サンパウロ市は日系人や日本人が最も集中している都市で、46都道府県の日本人会がそろっています。また、日系人による商店の並ぶベルタージ通りは、日本製品が何でも買える便利な場所です。サンパウロ州の隣には、観光地として世界的に有名なリオ・デ・ジヤネイロ州もあります。



▲サンパウロの近代的なまち並み

この地域の名物「フェジョアーダ」は、アフリカから来た人たちから伝わったと言われる、豆と、豚の全部位を使う料理です。また、トウモロコシの粉と魚介類・野菜を混ぜて固めた料理「クスクス・パウリスタ」も有名です。

ブラジルのなかのヨーロッパ ...南部3州 (の部分)

ブラジルで最も大きな湖があるリオ・グランデ・ド・スール州は、滋賀県と姉妹提携を結んで来年25年目です。私の生まれ育ったこの地域は、ドイツ、イタリア、ポルトガル、ポーランドなど、ヨーロッパからの移民が築きました。そのため、ヨーロッパ風の文化や習慣が残っていたり、教育水準が高く、外国の大手企業がたくさん進出していたりします。また、四季の変化がはっきりしていて、今年の冬(6~8月)にはブラジルでは珍しく2回も雪が降りました。その時には、いつも暑い地方から「寒さ」を体験するためにたくさんの人たちが訪れ、生まれて初めての雪を楽しむ姿は、ブラジル全土にニュースで流されました。

この地域は、大豆、米、食肉の生産やワインの製造が盛んです。また、名物シュハスコ(塩で味付けした肉を丸ごと串に刺し、炭でじっくり焼いた料理)の専門店に行くと、おいしい食事とともに、民族衣装を身に着けた人によるショーも楽しめます。

広大なブラジルは、そこに住む人や習慣も多彩で、とても愉快的な国です。いつかブラジルを旅行する機会があれば、ぜひ私を訪ねてください。

(彦根市国際交流員 田尾ロザーネ)